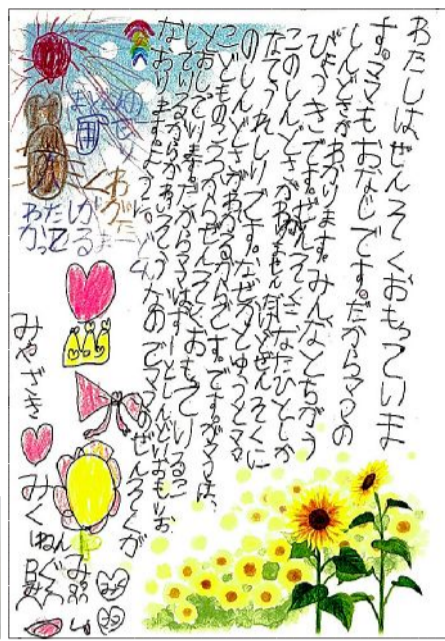


第5回 はがきの名文コンクール

ぜんそくのママへ 励ます言葉50通

郵便局に貼られた募集のポスターを見て、「応募したい」と自分から手を挙げた。ぜんそくに苦しんできた母・真由美さんのために、2、3歳のころから、お守りを作っている。「ママだけ限定」とはにかむ。毎年、七夕の短冊に書く願望なども決まっています。「ママのぜんそくがなおりますように」。「ママのぜんそくがなおりますように」。「ママのぜんそくがなおりますように」。

【五木寛之賞】 宮崎美空さん(7) 和歌山県



五木寛之さん 体質や気質のような、心の相続が作品の中に出ていた。人が抱えている苦しみまでも愛情に変えていくのだなと非常に感動した。

直接言えない思い込めて

ゲーム制限 母に不満もあるけど

「ゲームの制限時間が友達より短い」と小学5年生の亮介さんは口をぐらぐらさせる。1日30分だ。母・明日香さんは「そう言いながら、週に2日は時間、多いときは4時間もやっていると」。

「このゲームは何もかも嫌いな女の子にしかできない。ママは嫌いなゲームをやらせてほしくないです。ママの作りたいゲームをやらせてください。」

「ゲームの制限時間が友達より短い」と小学5年生の亮介さんは口をぐらぐらさせる。1日30分だ。母・明日香さんは「そう言いながら、週に2日は時間、多いときは4時間もやっていると」。



「ゲームの制限時間が友達より短い」と小学5年生の亮介さんは口をぐらぐらさせる。1日30分だ。母・明日香さんは「そう言いながら、週に2日は時間、多いときは4時間もやっていると」。

五木寛之さん 教育のような難しい問題を思いがけないところから書いていた。お母さんが好きだけれども、という親子の関係がとてもほほえましい。

職人気質の父 不器用な感謝の一言

人の好き嫌いが激しい、職人気質だった。夫は応募して約1か月後、93歳で亡くなった。生前、夫とよく言い争っていた。「ほんとうにね!」「なんでも!」「義理とていって、親やから!」

【村山由佳賞】 金持真須美さん(64) 兵庫県

わしのだいじ 「だいじなことをわけてほしいのわがこに」と。スワカに研えた大正生利の父。車椅子生活も3年。先月、いよいよ点滴だけが命綱となる。バヤリのスワカから。小こ(新)りたんだ大正生利が一枚。なげたに。私と夫の名前だけが書かれた。社を見て「わしのだいじ」と...



村山由佳さん 亡くなる前の父と心のやりとりができています。どうやって見送ろうかと本人が葛藤していることが伝わってきた。いとおいしい作品だ。

バスに乗るあの子のためにお願い

退職まで2年ほどになったところ。朝、自宅最寄りバス停で、小学校低学年とおぼしき女の子を、母親が心配そうに見送る光景を見かけるようになった。

【斎藤孝賞】 後藤順さん(66) 岐阜県

バスの乗客のみなさんへ その少女が降車ボタンを押すまで、乗客のみなさん、押さないでください。養護学級へひとり通う少女です。お母さんに教えられた「このボタンを押すのよ」との手順が狂ってしまうと、バスから降りられなくなります。



斎藤孝さん 「押さないように」と伝え合っている姿を想像して、いい情景だと感じた。バスが一つの気遣いの社会になっている様子が想像できてよかった。

ゆかりの地で 23日に表彰式

奈良県御所市にある一言主神社(はなご)との願いが実現した。このコンクールは、御所市にある「郵便名所館」が、はがきの名文コンクールの宛先でした。23日、近くのアザレアホールで表彰式を行います。



選考委員(左から)斎藤孝さん、五木寛之さん、村山由佳さん 発表会に出席した、受賞者のみなさん=10月30日、東京都内

【佳作】加藤葵衣さん(神奈川県)▽櫻井梓さん(愛知県)▽野口玲さん(青森県)▽網島身知子さん(東京都)▽赤井美芳さん(大阪府)▽逸見洋子さん(東京都)▽坂下勇輔さん(北海道) 【日本郵便大賞】丸山葵生さん(福岡県)▽伯井誠典さん(大阪府)▽矢野さつきさん(奈良県)▽田村淳さん(和歌山県)▽白藤勉さん(鹿児島県)▽林朋子さん(宮崎県)▽安田順子さん(岡山県)▽渡江康弘さん(神奈川県)▽寺坂通一さん(愛媛県)▽矢田稔さん(静岡県) 受賞作品はホームページ (http://www.hagaki-meibun.or.jp/hagaki2019/)に掲載されています。

地域の雰囲気まで浮かぶ

選考委員は作家の五木寛之さん、作家の村山由佳さん、明治大学教授の斎藤孝さん。第1回から企画・運営に尽力し、昨年まで選考委員を務めた故・堀屋太一さんに代わり、五木さんが選考に加わった。応募作の最年少は5歳、最高齢は103歳だった。

主催 はがきの名文コンクール実行委員会 協力 日本郵便、奈良県御所市、堀屋記念財団 後援 文部科学省、総務省、朝日新聞社

この特集は興野優平が担当しました。

Large advertisement for Ecorica's 100 million yen New Year's gift drawing. It features the Ecorica logo, a Visa gift card, and details about the drawing period (Nov 1, 2019 - Jan 11, 2020) and prizes. The main headline reads '今年も やります! 100万円 お年玉が当たる!' (This year too, we'll win! 100 million yen New Year's gift!). It also promotes Ecorica's eco-friendly ink cartridges and recycling services.